

2014年度 第42期

第2四半期決算報告書

平成26年1月1日～平成26年6月30日



力九電気株式会社
www.canare.co.jp

証券コード：5819

株主の皆様へ

第2四半期連結業績概要

前年同期	当第2四半期
売上高	43.1 億円 ▶ 46.9 億円 (+8.8%)
営業利益	4.8 億円 ▶ 6.3 億円 (+30.6%)
経常利益	5.1 億円 ▶ 6.7 億円 (+32.4%)
第2四半期純利益	3.2 億円 ▶ 4.8 億円 (+49.3%)
1株当たり第2四半期純利益	47.8 円 ▶ 71.5 円 (+49.3%)
総資産	98.9 億円 ▶ 109.4 億円 (+10.5%)
純資産	85.0 億円 ▶ 94.9 億円 (+11.6%)
1株当たり純資産	1,260 円 ▶ 1,407 円 (+11.6%)

※連結子会社は、9ページをご覧ください。

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第42期（平成26年12月期）第2四半期決算報告書をお届けするにあたり、当社グループの業績概要についてご報告申し上げます。

当第2四半期の当社グループをとりまく経営環境は、中国をはじめとするアジア市場が停滞気味に推移したものの、日本市場や直買地域が緩やかながらも回復傾向となったこと、及び為替相場が円安に推移したことが当社グループにとっては追い風の状況となりました。

このようななか、当社グループは、国内外においてアクティブBNC、光製品、木卓、BNCコネクタなどの販促活動を積極的に行うと共に、海外生産品を中心にコストダウンをはかるなど更なる収益性の改善に努めてまいりました。この結果、売上高46.9億円（前年同期比8.8%増）、経常利益6.7億円（前年同期比32.4%増）、純利益4.8億円（前年同期比49.3%増）となりました。中間配当金は、当初の発表どおり15円とさせていただきます。

通期業績予想につきましては、下半期（7-12月）のアジア市場がやや不透明なもの、日本国内、直買地域の売上増加及び為替相場も円安傾向（1ドル=102円程度）が続くと予想されることから、4月25日発表の通期業績予想の売上高99.5億円、純利益9.1億円は達成可能とみております。また、期末配当金は、17円（年間32円）を予定しております。

株主様におかれましては、今後もご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年9月
カナレ電気株式会社
代表取締役社長

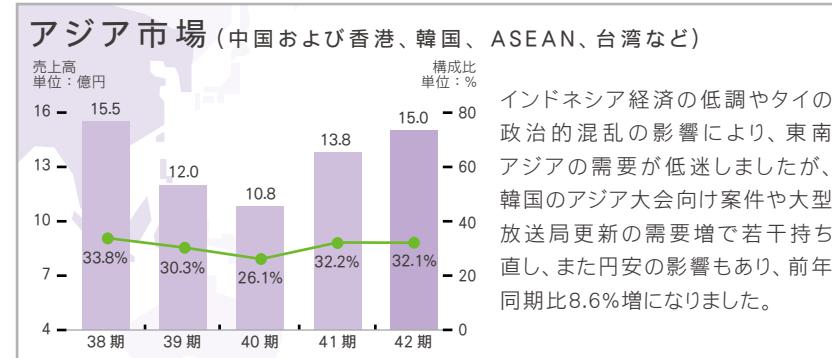
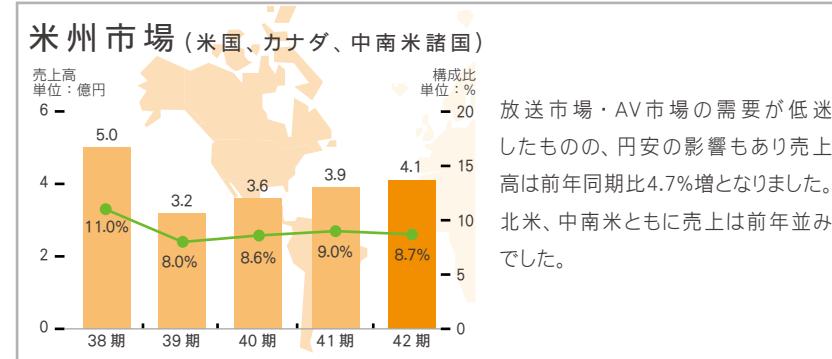
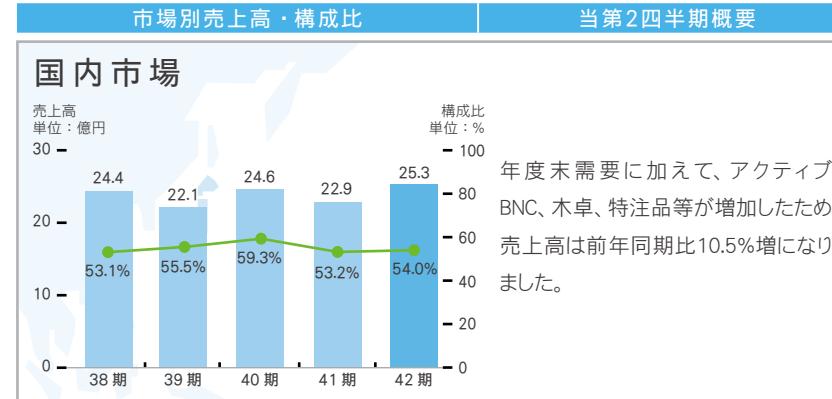
尾羽瀬正夫



連結業績

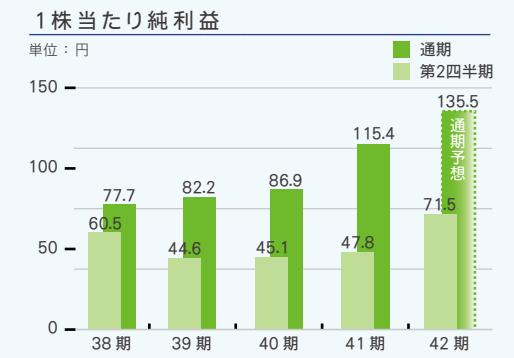
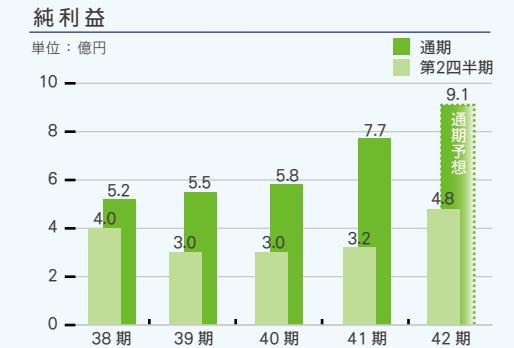
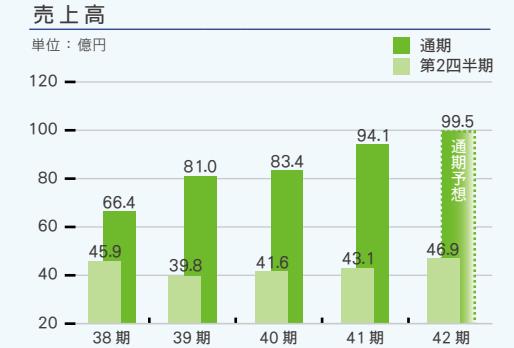
市場別売上高・構成比推移

※連結子会社は、9ページをご覧ください。



※第38期は決算期変更に伴う経過年度であり、第2四半期は、国内は4～9月の6ヶ月間、海外は1～9月の9ヶ月間となっておりますので、第39期以降の決算期との単純な比較はできません。

連結業績推移



<ご注意>通期予想は、現在入手可能な情報を基に慎重に策定しておりますが、さまざまな要因の変化から、実際とは大きく異なる可能性がございます。予めご承知ください。

質問にお答えします。

Q1 上半期の業績が順調のようですか？

A. 当上半期は、連結売上高46.9億円（前年同期比8.8%増）、連結純利益4.8億円（前年同期比49.3%増）と大幅増収増益となりました。円安の恩恵があったとはいえ、カナレグループにとっても、最近にない大幅増収・増益率となりました。日本、韓国、ロシア等での売上高増加に加えて、円安のプラス効果により大幅増収増益となったものです。このように今回

は、円安の恩恵もあっての大幅増収増益ですから、必ずしも、諸手を挙げて喜べるような内容ではありません。大幅増収増益が「生産数量増加→販売数量増加→売上高増加→利益の増加」のサイクルから生み出されて初めて業績が順調であったといえるのだと考えております。

Q2 円安の影響はどの程度でしたか？

A. この上半期の為替レートは、1USD 95.59円→102.47円、韓国ウォン 0.0867円→0.0979円、人民元15.47円→16.65円（いずれも前年同期のレートとの比較）とかなり円安となりました。円安の連結業績への影響としては、①円換算後売上高の増加、②海外販売子会社の仕入コスト減による売上総利益増、③親会社の海外生産品の輸入コスト増、④海外子会社の円換算後の販売管理費増加があります。これらの影響として、

売上高では約1.5億円の増収効果（売上高増加額の40.5%）があり、売上総利益率の改善（3ポイント、金額にして1.4億円）もかなりの部分が円安効果と見られます。一方、マイナス要因として、海外子会社の外貨建販売管理費を円換算することにより0.3億円程度増加しました。このように、今回の円安は、当上半期の大幅増収増益の大きな要因の一つとなりました。

Q3 東南アジア市場は中国市場と同様に今後の成長市場と思われませんが、現状はいかがですか？

A. この地域を担当する販売子会社がカナレ シンガポールです。2008年設立以来、シンガポール、インドネシア、タイの放送・電設市場が堅調であったため、売上高は比較的順調に推移し、2013年上半期では2.8億円までになり、利益面でも大きく貢献してまいりました。しかし、昨今のインドネシア経済のスローダウン（資源価格下落、外資の引き揚げなどの影響）やタイの政治的混乱による顧客の買い控えが発生し、この地域の2014年度上半期売上高は2.3億円（前年同期比17.7%減）とブレーキがかかり

ました。カナレ シンガポールはこのような状況から脱出するため積極的な販促活動を行っておりますが、当面の当地域の市場環境は厳しく、回復は早くとも年後半と見ております。



現地責任者に聞く

台湾における現地販売子会社であるカナレ台湾は、小規模ながら他の販売子会社の模範となるような好業績でグループ業績に貢献しております。

そこで現地責任者である**厳理事**に聞きました。



Q1. 台湾市場の今後は？

A. 台湾の放送局は2017年までにハイビジョン化を完了させる予定で、これからの3年間は設備投資の増加はほぼ確実です。また電設市場においても、設備投資はハイビジョンが前提となり、放送市場、電設市場とも中期的に市場は拡大する見通しです。ハイビジョン化に伴い、特に光製品の需要が増加すると予想され、光製品をはじめ多様な製品をもつカナレにとっては有利な状況となるとみております。

このようなお客様からの良い評判は、カナレ台湾にとっては大切な財産です。

Q2. 台湾におけるカナレ製品の評判は？

A. 手前味噌ですが、特に下記の点において、かなり良い評判をいただいております。

① 充実した品揃え

他社と異なり、システム構築に必要な製品を揃えており、お客様にとっては当社から一括して購入できるので非常に便利です。

② 信頼性高い製品

これまでの納入実績などから、カナレ製品は信頼性が高いことで知られておりプロフェッショナルな映像を求める放送局や映画音響制作会社から、当社製品を購入していただいております。

Q3. どのようにビジネスを発展させますか？

A. カナレの特長である充実した製品の品揃えや信頼性を武器に、顧客密着度を高め、お客様に頼りにされるカナレ台湾になると同時に、積極的できめ細かな販促活動を推進することによりビジネスを拡大させることが可能と考えております。これを実現するために下記の課題の解決に取り組みます。

- ① 優秀な営業スタッフの育成。
- ② 投資案件情報の早期収集により顧客のニーズにあった製品の提案。
- ③ お客様が必要なときに、必要なだけ出荷可能な製品在庫管理体制の構築

幸いにも、台湾市場は拡大傾向にあることもあり、これらの課題を解決することにより、毎年2桁の成長が可能と考えております。また、カナレは競合他社と異なり、現地販売会社（カナレ台湾）をもっていることから、きめ細かな営業活動が可能で、この市場拡大を具体的なビジネスにつなげることににおいては、他社より有利な立場にあります。

第2四半期連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表の要旨

(単位 千円)

資産の部	第2四半期 2014.6.30	前年同期 2013.6.30	負債の部	第2四半期 2014.6.30	前年同期 2013.6.30
流動資産	8,625,695	7,771,225	流動負債	1,056,841	1,010,627
現金及び預金	5,505,016	4,844,331	買掛金	483,052	440,799
受取手形及び売掛金	1,018,433	969,291	未払金	90,940	94,283
棚卸資産	1,616,695	1,564,033	賞与引当金	74,529	78,154
繰延税金資産	147,592	144,711	役員賞与引当金	15,517	10,545
1 その他	391,267	253,166	3 その他	392,802	386,844
貸倒引当金	▲ 53,308	▲ 4,308	固定負債	386,150	374,828
固定資産	2,314,628	2,123,084	長期未払金	1,306	2,006
有形固定資産	1,262,209	1,254,078	退職給付引当金	5,686	4,964
建物及び構築物	252,830	269,377	役員退職慰労引当金	56,157	81,308
機械装置及び運搬具等	235,641	223,679	4 その他	323,000	286,548
土地	773,738	761,022	純資産の部	第2四半期 2014.6.30	前年同期 2013.6.30
無形固定資産	3,574	4,693	株主資本	9,376,214	8,640,266
2 投資及びその他の資産	1,048,843	864,312	資本金	1,047,542	1,047,542
			資本剰余金	1,175,210	1,175,210
			連結剰余金	7,488,656	6,752,634
			自己株式	▲ 335,195	▲ 335,121
			評価・換算差額等	121,117	▲ 131,412
			その他有価証券評価差額金	157,897	137,801
			繰延ヘッジ損益	57	15
			土地再評価差額金	▲ 371,051	▲ 371,051
			為替換算調整勘定	334,214	101,822
資産合計	10,940,324	9,894,309	負債・純資産合計	10,940,324	9,894,309

- point 1**
・加工委託先への有償支給材など 177百万円
・一年内償還有価証券 50百万円
- point 2**
投資有価証券 889百万円

- point 3**
・未払法人税など 200百万円
- point 4**
・繰延税金負債 297百万円

- point 5**
・受取利息・配当金 25百万円
- point 6**
・為替差損 6百万円
- point 7**
・投資有価証券売却益 26百万円

第2四半期連結損益計算書の要旨

(単位 千円)

科目	第2四半期 2014.1.1~6.30	前年同期 2013.1.1~6.30
売上高	4,692,983	4,312,984
売上原価	2,757,201	2,666,921
売上総利益	1,935,782	1,646,063
販売費及び一般管理費	1,299,231	1,158,676
営業利益	636,551	487,386
5 営業外収益	51,547	30,513
6 営業外費用	10,902	6,534
経常利益	677,196	511,365
7 特別利益	26,142	21,360
特別損失	316	316
税金等調整前 第2四半期純利益	703,022	532,409
法人税、住民税及び事業税	219,208	155,014
法人税等調整額	1,161	54,218
第2四半期純利益	482,652	323,176

第2四半期連結キャッシュ・フロー

(単位 千円)

	第2四半期 2014.1.1~6.30	前年同期 2013.1.1~6.30
8 営業活動によるキャッシュ・フロー	368,050	416,967
9 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 93,594	4,914
10 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 108,070	▲ 94,563
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 52,227	76,024
キャッシュ・フロー計	114,158	403,342

- point 8**
・税引前純利益 703百万円
・棚卸資産の増加 ▲130百万円
・法人税等の支払額 ▲266百万円
- point 9**
・定期預金の払戻による収入 127百万円
・投資有価証券の取得による支出 ▲118百万円
・役員生命保険の積立による支出 ▲101百万円
- point 10**
・配当金の支払額 ▲108百万円

自己資本比率 (第2四半期連結)



自己資本純利益率 (ROE/第2四半期連結)



売上高経常利益率 (第2四半期連結)



1株当たり純資産 (第2四半期連結)



1株当たり純利益 (第2四半期連結)



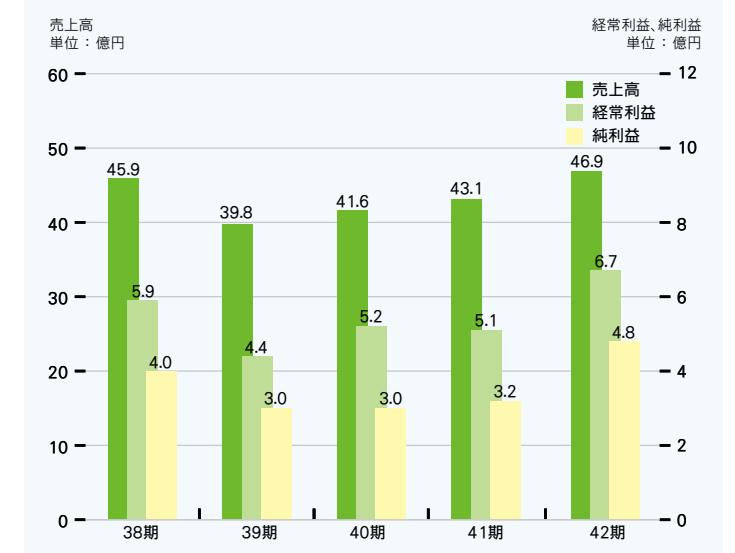
売上高純利益率 (第2四半期連結)



財産状況推移 (第2四半期連結)



業績推移 (第2四半期連結)



※第38期(平成22年12月期)から決算期を変更しました。第39期以降の決算期との単純な比較はできませんので、ご了承ください。

株式の状況 (2014年6月30日現在)

発行可能株式数 23,092,200 株

発行済株式の総数 7,028,060 株
(内 自己株式数 278,323 株)

単元株式数 100 株

株主数 8,213 名
(前期末比 257名増加)

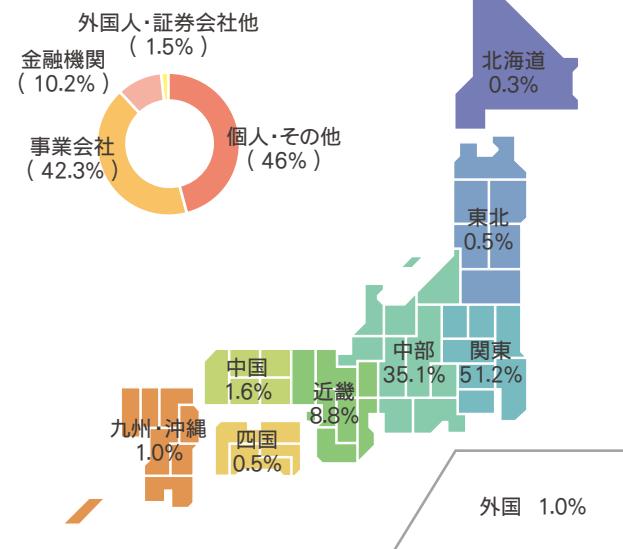
大株主

株主様名	所有株式数 (単位: 千株)	出資比率 (単位: %)
有限会社香流	800	11.3
株式会社新高輪	800	11.3
株式会社センリキ	350	4.9
川本公夫	300	4.2
カナレ電気株式会社 (自己名義)	278	3.9
大阪インダストリーズ株式会社	203	2.8
加藤宣司	200	2.8
川本重喜	200	2.8
株式会社ノダノ	200	2.8
合同会社カワシマ	200	2.8

●所有株式数は千株未満を、出資比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主様分布 (議決権個数の割合による)

[所有者別] [地域別]



株主優待

カナレ電気の株主優待制度

基準日現在の株主名簿に記載され、かつ100株以上を保有されている株主様へ半期ごとに株主優待品を贈呈いたします。

同封いたしましたので、ご確認ください。



決算日	保有株式数別 優待		お届け時期	贈呈方法
	100株以上 200株未満	200株以上		
2014年 6月30日	クオカード 1,000円分	クオカード 2,000円分	今回同封	「第2四半期決算報告書」に同封
2014年 12月31日			2015年 3月中旬(予定)	「株主総会決議通知」に同封

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

配当の基準日 毎年6月30日および12月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店

住所変更も
証券会社へ

■住所・氏名など届出事項の変更について

証券会社等に口座をお持ちの株主様 … 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
特別口座をお持ちの株主様 …… 下記連絡先(三井住友信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

■未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三井住友信託銀行までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三井住友信託銀行
証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル)

会社概要

会社概要 (2014年6月30日現在)

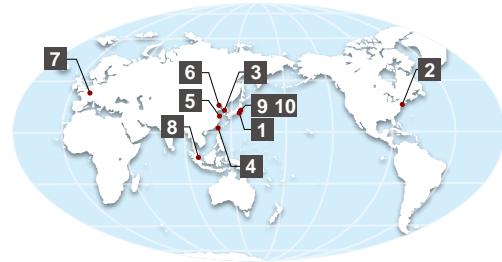
商号 カナレ電気株式会社
 本社 神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜 WNビル4F
 (登記上の本社 愛知県日進市藤枝町)

設立 昭和49年(1974年)2月 (創業:昭和45年)
 資本金 10億4,754万円
 従業員数 90名 / グループ:239名
 (パート、派遣社員は含まず)

事業所 新横浜本社、名古屋本社、横浜事務所、名古屋営業所、
 大阪営業所、福岡営業所、光デバイス開発部

連結子会社

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 カナレハーネス株式会社 | 6 Canare Electric Corporation of Tianjin |
| 2 Canare Corporation of America | 7 Canare France S.A.S |
| 3 Canare Corporation of Korea | 8 Canare Singapore Private Ltd. |
| 4 Canare Corporation of Taiwan | 9 カナレシステムワークス株式会社 |
| 5 Canare Electric (Shanghai) Co.,Ltd. | 10 株式会社カナレテック |



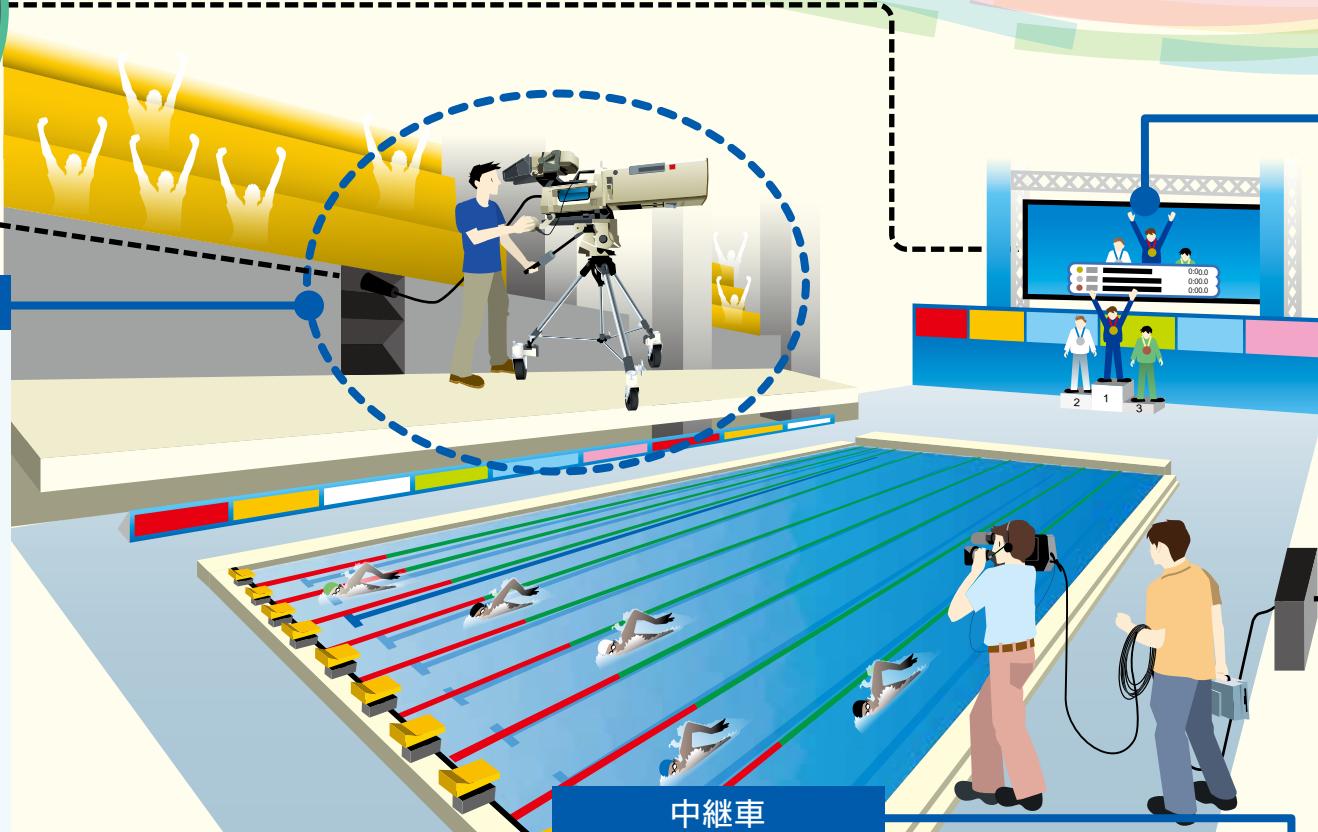
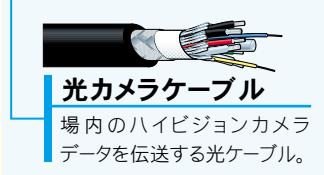
取締役、監査役および執行役員

代表取締役社長、社長執行役員 尾羽瀬 正夫
 常務取締役、執行役員 大野 淳一郎
 取締役、執行役員 後藤 晃男
 取締役、執行役員 吉森 直樹
 取締役、執行役員 中島 正敬
 取締役、執行役員 小淵 敦
 取締役、執行役員 祖父江 秀行
 取締役相談役 加藤 宣司
 常勤監査役 財田 洋一

監査役 高橋 久志美
 監査役 田中 耕一郎
 執行役員 大田 猛史
 執行役員 堀 隆彦
 執行役員 野田 爾

IR情報に関するお問い合わせ先
 小淵 敦 TEL 045-470-5503(代)

現在、さまざまなスポーツ競技場で
 カナレの製品は活躍しております。



GANARE

カクシ電気株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜 WNビル4F
TEL.045-470-5503 FAX.045-470-5504

